

『組合設立30周年記念の会』

開催

ACTIVE KUMIAI



あいさつをする川手理事長

山梨県アパレル工業組合(川手正紀理事長)は、去る8月21日甲府市塩部ニュー芙蓉において、『組合設立30周年記念の会』を開催した。この会は、本組合の設立30周年を記念して行われたもので、組合員をはじめ関係機関を合わせて30名が出席し行われた。

本組合は昭和54年に、山梨県既製服工業協同組合と協同組合山梨県縫製懇話会が合併し、山梨県既製服縫製工業組合として活動を開始した。その後、昭和58年に山梨県アパレルソーイング工業組合、平成17年には現在の山梨県アパレル工業組合へ名称を変更し、その歴史を刻んできた。

組合が設立された当時は紳士服縫製加工が主業務で、徐々に取扱品目が増加、婦人服の縫製を行うようになった。縫製加工は集約的産業で、手作業による部分が多くを占めている。紳士服の縫製で身に付けた技術と多種少量かつデザイン婦人服の縫製技術を複合し、高い技術力で現在に至っている。

平成16年からは「外国人研修生共同受入事業」を開始し、平成20年には第4期生16名を迎え、現在では約60名の研修生が組合として受け入れている。

全国でも不正行為など様々な問題がある中で、本組合は「技能継承のための労働力確保第一歩」を目的に掲げ、アパレル産業の発展のために技術指導を行い、多くの実習生が育っている。

今回の「記念の会」では記念式の他、懇親パーティが行われ、歴代理事長平川良雄氏(3代理事長)、松吉寛治氏(4代理事長)の2名を挨拶を行い組合の歴史を振り返った。



3代理事長 平川良雄氏



4代理事長 松吉寛治氏